

## 3-4 西日本における 竈破却の一二相

宮崎敬士

- |           |         |
|-----------|---------|
| 1 はじめに    | 5 分析    |
| 2 竈破却の一二相 | 5-1 系譜  |
| 3 対象と方法   | 5-2 動静  |
| 4 結果      | 5-3 価値  |
| 4-1 概要    | 5-4 予察  |
| 4-2 空間分布  | 5-5 まとめ |
| 4-3 時間分布  |         |

### 1 はじめに

先節では、低平な沖積地に点在する古墳時代後期集落の特徴を抽出した。その特徴は、第一に水害が予想される立地を採った通時代的稀観例であり、第二に須恵器模倣坏が使用される時期に営まれ、第三に住居火処の廃止方法が複数認められたことであった。

本節では、第三の特徴のうち造り付け竈の破却を対象とし、西日本におけるその分布を示し、新南部遺跡群の位置をもとめることとする。

### 2 竈破却の一二相

低平な沖積地に点在する古墳時代後期集落の竈を造り付けた住居は、次のとおり配列することができる。

- A 造り付け竈の燃焼部から完形の甕等が検出される竪穴住居
- B 造り付け竈の燃焼部と焚出部の間に石材を設える竪穴住居
- C 造り付け竈の燃焼部中央（火床）に高坏を伏せ置く竪穴住居
- D その他

A～Cは竈使用状況の保持の度合いにより配列されており、Aは竈の使用を示し、B及びCは竈の破却という行為を示している。（ただし、本来、DはAB間に位置し、B、Cは並置されるものである。B、Cは新南部遺跡群における出土数量にしたがい配列した結果である。）

なお、Bにおける石材を袖芯等、竈の構築材の一部とする見解、Cにおける高坏を竈の支脚とする見解もある。しかし、前者は石材に竈粘土の付着が認められず、石材直上でも土器片等の遺物が出土すること、後

者は高坏に被熱痕が欠如し、竈が破壊された高さに位置する脚部も含めた完形品であることにより、いずれも肯じがたい。

つまり、低平な沖積地に点在する古墳時代後期集落における造り付け竈の破却には、上記のとおり、B石材設置とC高坏伏置という二相が存在するのである。

### 3 対象と方法

対象遺構は、造り付け竈をB石材設置、C高坏伏置を伴って破却した竪穴住居である。B石材設置は石材が角柱、扁平礫、板石のいずれであっても例に加え、C高坏伏置は竈内に高坏を伏せ置いたことが示されていれば該当と判じている。

対象範囲は、九州、四国、中国及び近畿の4地方から沖縄県を除き、三重県を加えた範囲とした。府県名を概ね南方から記せば、九州地方の鹿児島県、宮崎県、大分県、熊本県、長崎県、佐賀県、福岡県、四国地方の高知県、愛媛県、香川県、徳島県、中国地方の山口県、広島県、岡山県、島根県、鳥取県、近畿地方の和歌山県、奈良県、兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県及び三重県である。

以上にもとづき、文献検索により類例を集成した。検索には熊本県文化財資料室に配架された発掘調査報告書を用い、各報告書に掲載された文章、表、図又は写真に拠って該当例を抽出した。

### 4 結果

#### 4-1 概要

造り付け竈を破却した竪穴住居のうち、B石材設置例は69遺跡156例、C高坏伏置例は74遺跡236例を確認した。



Fig.3-4-1 西日本における竈破却の一二相（分布図）

相	遺構数	遺跡数
B石材設置	89	49
C高坏伏置	160	54
B+C	30+25	11
B+BC	13+4	3
BC+C	2+35	2
B+BC+C	12+6+4	4
合計	380	123

Tab.3-4-1 竈破却の一二相（集計表）

なお、この二相は遺構又は遺跡において複合する場合がある。遺構において複合した例、すなわち石材を設置し、かつ高坏を伏せ置いた竈破却例は 9 遺跡 12 例を確認した。（以下、この例を「BC 石材高坏」と記述する）。遺跡において複合した例、すなわち B 石材設置、C 高坏伏置又は BC 石材高坏のうち複数相が共存する例は 20 遺跡を確認した。

その空間的な分布は、九州では中央構造線以北、四国及び本州では中央構造線以北かつ中国山地以南の範囲に限られ、さらに各相に固有の分布傾向が存在することを確認した。その時間的な分布は、5 世紀に九州の筑紫地域にはじまり、5 世紀後半までには四国及び本州への展開を終え、さらに各相に固有の終焉時期が存在することを確認した。

## 4-2 空間分布

B 石材設置、C 高坏伏置、BC 石材高坏の分布範囲は、その南端を中央構造線、その北端を四国及び本州では中国山地、としてよい。中央構造線以南の分布例は高知県伏原遺跡のみであり、かつ本州における分布例は日本海に至ることはないからである。この分布範囲内において、B 石材設置は山間部に凝集し、C 高坏伏置は平野部に散在する、といった各相固有の分布傾向を示している。

B 石材設置が山間部に凝集する分布傾向は、中国地方において明瞭である。その分布範囲は地体構造区分では秋吉帯に該当し、古代以降の銅、鉄の生産地域に一致する。秋吉帯はベルム紀後期の弱変成付加体からなり、砂岩、泥岩、チャート等、通常の海洋プレート層序構成岩の他に、古海山起源の緑色岩と礁石灰岩からなる巨大異地性岩体を含むことが特徴である（磯崎ほか 2010）。このような石灰岩地帯に花崗岩が貫入すると、銅、鉄を含む接触交代鉱床（スカルン鉱床）が形成される。なお、秋吉台、帝釈台のように広く石灰岩が分布する地域にはカルスト地形が発達する。その景観は錐状の石灰岩柱（ラビエ）とすり鉢状の窪地（ドリーネ）が群れた構成をとるため、カルスト地形は視認しやすい。

なお、九州における B 石材設置の分布範囲は、概ね北九州浅熱水性金鉱床区（豊肥地域）に該当し、近

代の金、銀等の生産地域に一致する。熱水性鉱床は、深層の金、銀、銅等の鉱物を含む熱水が表層移動することにより冷却し、鉱物を晶出沈殿させて形成される。九州には、鮮新世から更新世にかけての火山活動に伴う浅熱水性金銀鉱床が分布する（渡辺 2004）。このうち、国東半島から日田盆地にかけての一帯が北九州浅熱水性金鉱床区（豊肥地域）であり、馬上、引治、星野、鯛生等、金、銀を産出する鉱床が含まれる。九州が日本で最も金に富む島になった原因は、鮮新世以降、各地で伸張運動に伴う地溝が形成されたために他ならず、その形成メカニズムから金鉱床は温泉に隣接している場合が多い。

また、C 高坏伏置は沖積平野の縁辺部に散在している。C 高坏伏置を擁する遺跡は、扇状地の扇頂、丘陵の端部、地峡の入口等、沖積平野と異地形との接点すなわち地形変換点に立地する。その分布密度が最も高い九州をみれば、これらの遺跡は領域区分の基本形（平野 2002、p.119）の縁端部にそれぞれ位置し、網状に展開する遺跡群となっている。

おって、BC 石材高坏は山間部に点在している。これは、B 石材設置、C 高坏伏置、二相の特徴をそれぞれ部分的に併せもった分布傾向である。

竈破却の二相は、西日本において概ね上記のとおり分布する。

## 4-3 時間分布

B 石材設置、C 高坏伏置、BC 石材高坏は、5 世紀に始まり、6 世紀に盛行し、それぞれ異なる時期に終焉する。

5 世紀初頭の福岡県塚堂遺跡 17 号住居跡では、高坏 2 脚が重ねられ、川原石を焚口の芯に用いた造り付け竈の「破壊後に整然と再配置」されている（馬田 1985、p.146）。高坏は、いずれも坏部を取り去り、燃焼部中央に正立した状態で重ね置かれていた。ともに脚部に円窓を透かし、坏部と脚部を充填式を用いて接合していることから、5 世紀初頭に比定される。竈はその上半を壊し、両袖芯の川原石の上端を露出し、さらに内傾させ、その上に川原石を架けている。横位

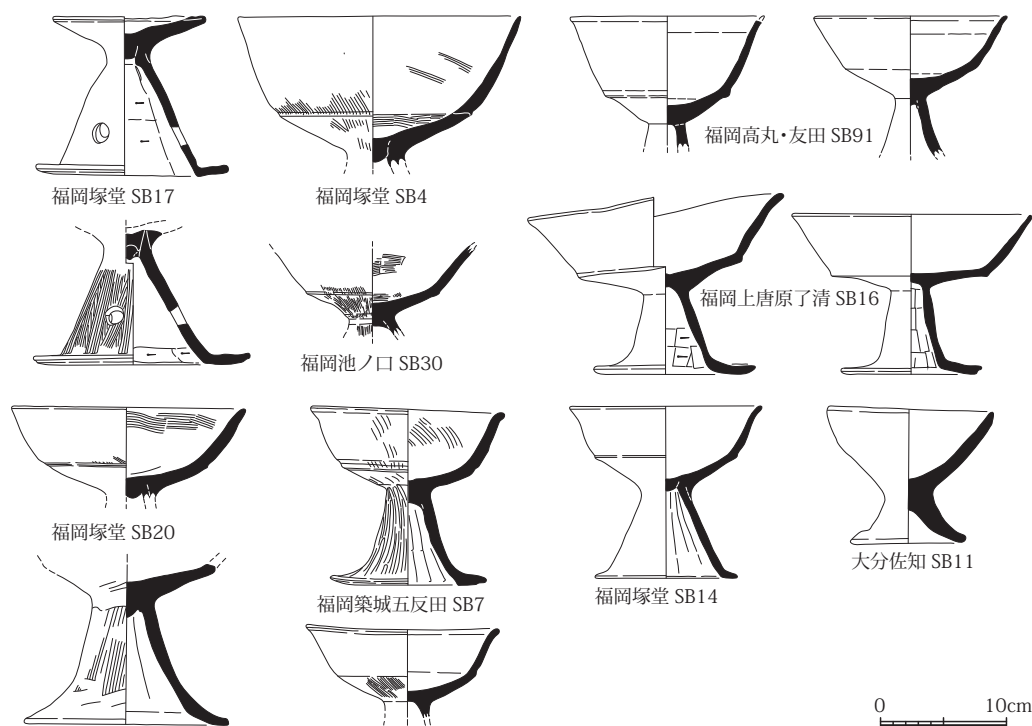


Fig.3-4-2 竈に伏せ置かれた高環（九州、筑紫、5世紀）

に架されたこの川原石は復元長 45cm を測るが、「両袖石を正立させた状態での両袖石内側間はこれよりも大きく、天井石を架すことはできない」ものであった（馬田 1985、p.137）。したがって、塚堂遺跡 17 号住居跡例は、竈を破壊し焚口に石を組み燃焼部に高環を重ね置いた竈破却、としてよい。さらに、B 石材設置、C 高環伏置、BC 石材高環の最古例として位置付けることができる。

なお、5 世紀前半のうちに、B 石材設置、C 高環伏置が出現し、九州では筑紫地域、本州では近畿地方を中心とした分布を示す。そして 5 世紀後半までには四国及び本州中国地方へも分布範囲を伸張させ、一世紀に満たない期間で最大版図への分布を完了する。

また、6 世紀には、BC 石材高環、B 石材設置、C 高環伏置いずれもが最大数となり、盛行期を迎える。6 世紀後半には、B 石材設置 30 例のうち 16 例が中国地方の秋吉帯に展開し、同じく石灰岩分布域である三重県壇・柏原遺跡に 1 例が出現する。この他九州の日田盆地に 7 例が確認できるため、6 世紀後半は B 石材設置の凝集傾向が顕在化する時期、としてよい。

おって、7 世紀以降、BC 石材高環は確認できなくなる。C 高環伏置は 7 世紀前半で終焉を迎える。B 石材設置は少数のまま 8 世紀まで継続するが、その分布範囲は肥後地域を中心とした九州の内に限られる。

竈破却の二相は、西日本において概ね上記のとおり変遷する。

## 5 分析

### 5-1 系譜

竈破却の二相は、遺構において複合した福岡県塚堂遺跡例を最古としていた。その直後に同所で、石材を設える例と高環を伏せ置く例を確認することができる。このことから、石材を設える例と高環を伏せ置く例の二相は、この筑紫地域において石材を設置しかつ高環を伏せ置く一相を起原として、ほぼ同時に派生した、と考えてよい。

### 5-2 動静

これら竈破却の三相は、各々固有の分布傾向をもちながら、一連のものとして特定期間のうちに西日本の特定地帯に拡散している。竈の破却に際し石材を設える例は金属鉱床の分布地域に凝集し、高環を伏せ置く例は領域区分の基本形を網状に編成するあり方を示していた。いずれの相も単独で集落を形成することではなく、すべての住居に対する三相の住居の比率は、最低値 0.5%（愛媛県北井門遺跡）、次点 0.6%（徳島県大柿遺跡）、平均 1.4% である。しかし、三相のうちに限れば、単相例は多数（103 遺跡 252 例）、複合例（20 遺跡 128 例）は少数であり、さらに複合が複雑化するほど例数を減じている。この例数の多寡にしたがい、竈破却の三相を複雑な複合例、複合例、単相例の順に配列すると、階層性をそなえたピラミッド型の構造が抽出される。これは軍隊等、特定の目的達成のために

時期	期間
草創期 弥生時代	～ 仏教伝来 (538)
定着期 仏教伝来 (538)	～ 東大寺大仏開眼供養 (752)
模索期 東大寺大仏開眼供養 (752)	～ 石見銀山の開発 (1526)
発展期 石見銀山の開発 (1526)	～ 小判座 (金座の前身) の設置 (1595)
熟成期 小判座 (金座の前身) の設置 (1595)	～ 元文の貨幣改鑄 (1736)
爛熟期 元文の貨幣改鑄 (1736)	～ ペリーの来航 (1853)
再生期 ペリーの来航 (1853)	～

(村上2007から作成)

Tab.3-4-2 技術から見た7つの時期区分

編成される組織に採用される構造であり、単一の指揮命令系統の下、戦略 (Strategy)、作戦 (Operation)、戦術 (Tactics)、後方支援 (Logistics) といった職掌が階層的に分担されることが特徴である。これらの各階層に三相の分布的特徴を重ねると、高坏を伏せ置く

例は情報伝達や物資補給等を担う後方支援、石材を設える例は鉱床探査等の個別目的をもった実働戦術部隊、複合例は両者を統合して特定地域の鉱床開発を計画運営する作戦部、と整理し位置付けることができよう。つまり、竈破却の三相からは、集落内でも一般化することなく、地方を超えて広範囲に分布し、複数世代にわたり維持された組織が復元できるのである。その根拠地は、竈破却の三相の系譜、分布数、分布密度から九州筑紫地域とすることが適切である。そして、その戦略は、中央構造線という若い地体構造の中を、視認しやすい金属鉱床を探りながら東進している組織の動静の中にある。

### 5-3 価値

村上隆は、金銀銅に代表される金属を地球から得る技術を「第一の技術」、金属素材を加工してモノを作り出す技術を「第二の技術」と定義し、日本における金属と人の歴史を技術から見た7つの時期に区分した (村上 2007)。なお、『日本書紀』、『続日本紀』の記述から、7世紀後半は鉱物資源を国産で調達しようとする機運が盛上がった時期であると考え、これを「第一次鉱山ブーム」とした。そして、この段階において、第一、第二の技術が日本国内に揃い、原料を輸入して加工するだけの段階から、原料を自前で調達するところまで到達したと評価した (村上 2007、pp.52-55)。

竈破却の三相からは、6世紀後半に盛行する石材を設える例が金銀銅の鉱床探査を実行し、高坏を伏せ置く例が後方支援、複合する例が計画運営を分担する系統だった組織に担われた、と推定した。各遺跡の在り方は、この竈破却の三相をそなえた少数の遺構が各地域の集落に浸潤する様相を示しており、それは各地域土器群に組成する高坏を用いること、須恵器使用等の多様化が認められること等、遺物にもあらわれている。その一方で竈破却の三相は、特定型式の煙道を備えた竈等の遺構、初期須恵器、須恵器模倣土師器、土鈴等

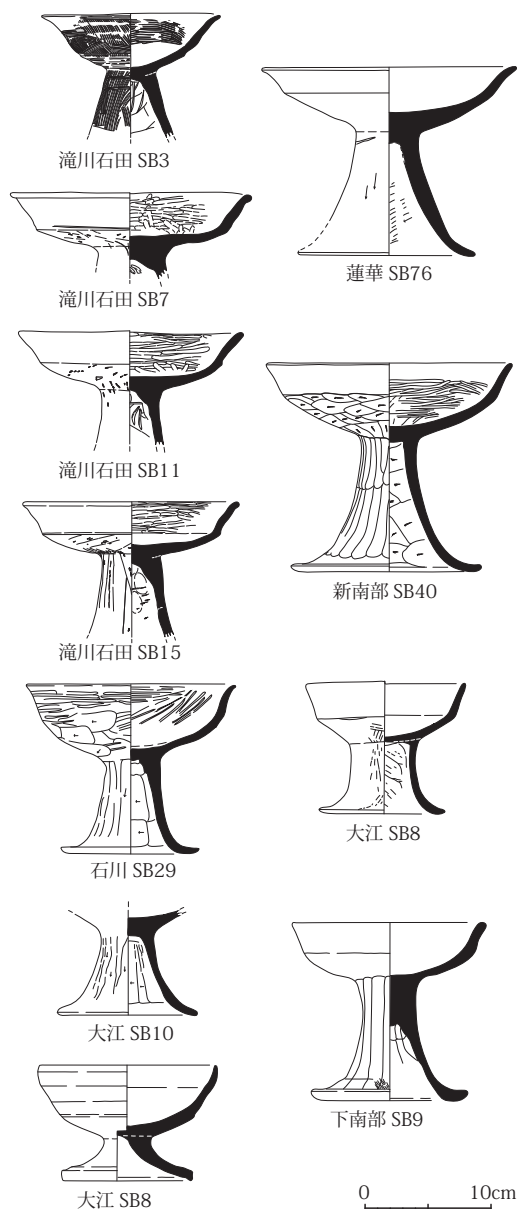


Fig.3-4-3 竈に伏せ置かれた高坏 (九州、肥後)

の韓半島系の遺物、そして紡錘車等の自給自足側面をもつ遺物を共伴している。また、砂岩等、金鉱床に分布する石材を用いること、凝灰岩等、金属精錬に用いる石材の露頭に近在するといった専門的な要素も継続的に保持している。つまり、竈破却の三相は在地の既往要素と共存し、それに編入して緩やかに展開したものの、基本的同一性は一貫して保ち続けた現象であることを示している。これは大陸、韓半島からの渡来集団に准えることができる現象であるが、当の大陸、韓半島の要素は反復されないばかりか、当初から一定程度変容して存在していることに注意が必要である。

なお、村上は、金属原料の自前調達の技術が6世紀後半以前に開始された可能性を指摘している（村上2007、p.54）。竈破却の三相は、5世紀初頭の福岡県塚堂遺跡17号住居跡に初例をもとめることができ、金属原料の自前調達の技術の開始時期をここにまで遡らせることができる、と示唆している。

#### 5-4 予察

竈破却の三相は本川遺跡（愛知県豊田市）、神屋遺跡（茨城県稲敷市）、当向遺跡（茨城県西茨城郡岩瀬町）等にも分布し、現在の最北端例は高木遺跡（福島県本宮市）である。高木遺跡は、奥羽山脈と阿武隈高地の間を南北にのびる郡山盆地の北端に位置し、北流する阿武隈川に沿って1.5km以上にわたり展開する。集落は東西方向に走る複数の大溝により区画され、200軒以上の住居群が7世紀を中心に隆盛する。6世紀後半に属する103号住居跡の竈は、燃焼部中央に栗囲式の高坏が伏せ置かれ、破却されていた（大波2002）。このように、東北日本では関東平野から奥羽山脈に沿って仙台平野に向かって断続した沖積地帯を北上する様相が存在する。すなわち、竈破却の三相は後代の律令制社会の辺境より一国くらい狭い範囲に展開している、と予察することができるのである。

さて、上記の様相は、竈破却の三相が後代の律令制社会の前駆体である、との理解を惹起するかもしれない。しかし、竈破却の三相は始終その中心地域を九州に置き、後代の律令制社会の中心地である奈良盆地を通時的な空白地域とする分布を示している。したがって、この現象を律令制社会の成立に直結するものと理

解することはできない。

なお、竈の破却に際して石材を設える例は6世紀までは筑紫地域に中心が在るが、後に肥後地域へと遷っている。この肥後地域への中心の移動は7世紀前半に認められる現象であり、領域区分の基本形を精確に網羅していた竈の破却に際して高坏を伏せ置く例の終焉時期、そして、中央と地方の間の情報伝達や物資運送を担う古代道路と古代駅伝制の開始時期に重畳している。

これら複数の現象は、日本列島における古代国家形成過程は、それほど単線、短絡、単純ではないことを明示している。古代国家の形成過程には共同、競争、略奪のいずれもが国家形成の方途として存在し、その方途を選択する主体も単一である必要はない。このことを顕示する現象を複数伴って、竈破却の三相は存在している。

#### 5-5 まとめ

造り付け竈の破却には三つの相があり、その分布は律令制社会の版図の内にある。5世紀から九州筑紫地域を起源として、中央構造線上に展開した竈破却の三相は、金、銀、銅、鉄の鉱床開発組織の存在を示し、金属をめぐる技術から見た定着期（村上2007）に最盛し、模索期（村上2007）には終焉する。

竈破却の三相が確認される時期は古代国家形成期にあたるが、竈破却の三相が示す古代国家の形成過程は、複雑で、多様性をもち、順序だった遷移を示してはいない。すなわち、古墳時代（後期）から律令制社会にいたるまでの遷移は、共同体の外部からの力によっておこった他成的な遷移（Allogenic Succession）であることを竈破却の三相は示している。そして、竈破却の三相それ自体も外部からの力の一例に数えられる。新南部遺跡群の発掘結果は、上記のような在り方を示す竈破却の三相の例証として位置づけられよう。



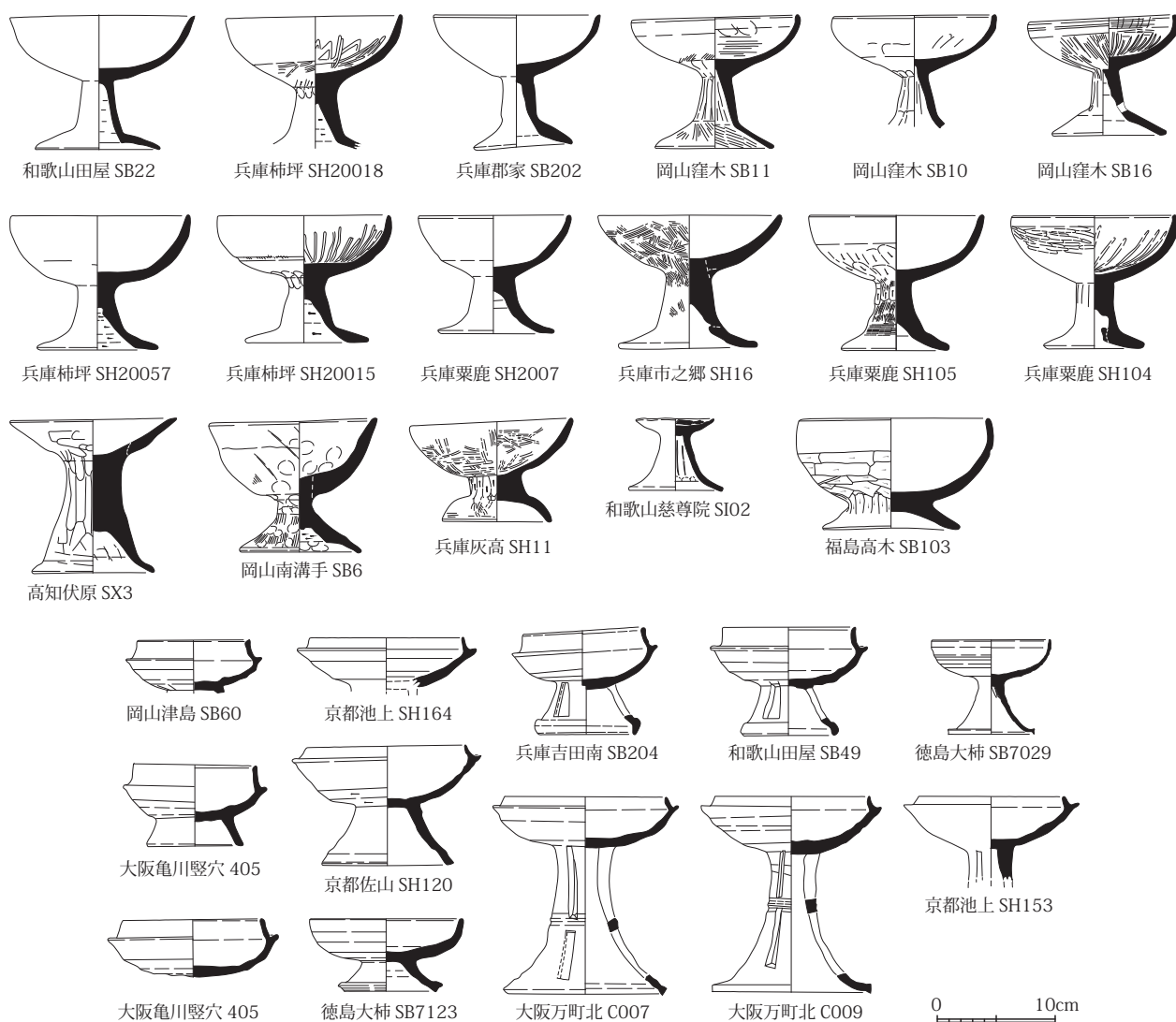


Fig.3-4-5 竈に伏せ置かれた高坏（四国、中国、近畿、附福島及び須恵器）

## （引用文献）

磯崎行雄、丸山茂徳、青木一勝、中間隆晃、宮下敦、大藤茂、2010、「日本列島の地帯構造区分再訪」、『地学雑誌』119(6)、東京地学協会、999-1053。  
大波紀子、2002、「103号住居跡」、『阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告』2、福島県文化財調査報告401、福島県教育委員会、福島、pp.322-328。  
平野邦雄、2002、『邪馬台国の原像』、学生社、東京。  
馬田弘稔、1985、「17号住居跡」、『塚堂遺跡Ⅳ』(2)一般国道210号線浮羽バイパス関係埋蔵文化財

調査報告4、福島県教育委員会、福島、pp.136-150。

村上隆、2007、『金・銀・銅の日本史』、岩波書店、東京。  
渡辺寧、2004、「生きている九州 - 浅熱水性金鉱床生成区の変遷」、『地質ニュース』599、産業技術総合研究所、31-39。

Tab.3-4-3 対象遺構とその種類

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典	No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
1	熊本県	新南部	3	S038	B	1	72	福岡県	沖出梅木	-	7号	B	37
2	熊本県	新南部	3	S040	BC	1	73	福岡県	沖出梅木	-	15号	B	37
3	熊本県	新南部	3	S042	B	1	74	福岡県	貝元	2	117号	B	39
4	熊本県	新南部	3	S043	B	1	75	福岡県	貝元	2	120号	C	39
5	熊本県	新南部	3	S046	B	1	76	福岡県	貝元	1	121号	B	38
6	熊本県	新南部	3	S047	B	1	77	福岡県	貝元	2	168号	B	39
7	熊本県	新南部	3	S049	B	1	78	福岡県	貝元	1	176号	B	38
8	熊本県	新南部	3	S050	B	1	79	福岡県	貝元	1	248号	B	38
9	熊本県	新南部	3	S051	B	1	80	福岡県	貝元	1	258号	B	38
10	熊本県	新南部	3	S057	B	1	81	福岡県	宮原	-	227号	C	40
11	熊本県	新南部	3	S058	B	1	82	福岡県	有田・小田部	8	SI09	C	41
12	熊本県	新南部	-	9号	B	2	83	福岡県	有田・小田部	124	SC02	C	42
13	熊本県	竜田陣内	-	2号	B	3	84	福岡県	有田・小田部	131	SC01	C	43
14	熊本県	下南部	-	5号	C	4	85	福岡県	有田	-	3号	C	44
15	熊本県	下南部	-	9号	C	4	86	福岡県	金武城田	-	SC04	B	45
16	熊本県	大江	1	4号	B	5	87	福岡県	那珂	82	SC09	C	46
17	熊本県	大江	3	8号	C	6	88	福岡県	那珂	86	SC006	C	47
18	熊本県	大江	3	12号	B	6	89	福岡県	那珂	125	SC019	C	48
19	熊本県	大江	23	2号	B	7	90	福岡県	重留村下	4	SC06	C	49
20	熊本県	大江	42	2号	B	8	91	福岡県	惣利西	-	1号	B	50
21	熊本県	大江	69	4号	B	9	92	福岡県	三雲・井原	7	1号	B	51
22	熊本県	大江	69	7号	B	9	93	福岡県	牛ガ熊	-	7号	C	52
23	熊本県	大江	84	2号	C	10	94	福岡県	牛ガ熊	-	8号	C	52
24	熊本県	大江	84	4号	C	10	95	福岡県	筑後国府跡	65	SI3021	C	53
25	熊本県	大江	97	SI08	C	11	96	福岡県	太郎原	1	SI80	B	54
26	熊本県	大江	97	SI10	C	11	97	福岡県	太郎原	1	SI160	B	54
27	熊本県	大江	108	1号	C	12	98	福岡県	北の前	1	1号	C	55
28	熊本県	辻	1	15号	B	13	99	福岡県	北の前	1	2号	C	55
29	熊本県	西谷	3	3号	B	14	100	福岡県	北の前	1	3号	C	55
30	熊本県	新屋敷	16	14号	B	15	101	福岡県	北の前	1	25号	C	55
31	熊本県	新屋敷	26	SI03	B	16	102	福岡県	瀬戸	-	1号	C	56
32	熊本県	新屋敷	27	2号	B	17	103	福岡県	瀬戸	-	3号	C	56
33	熊本県	陣山	-	19号	B	18	104	福岡県	瀬戸	-	12号	C	56
34	熊本県	陣山廃寺	3	3号	B	19	105	福岡県	瀬戸	-	25号	C	56
35	熊本県	二本木	35	SH12	B	20	106	福岡県	高塚	-	2号	C	57
36	熊本県	二本木	49	SI090	B	21	107	福岡県	高丸・友田	-	91号	C	58
37	熊本県	石川	12	29号	C	22	108	福岡県	高丸・友田	-	96号	C	58
38	熊本県	蓮華	-	S076	C	23	109	福岡県	高丸・友田	-	104号	B	58
39	熊本県	滝川石田	1	3号	B	24	110	福岡県	高丸・友田	-	106号	C	58
40	熊本県	滝川石田	1	12号	B	24	111	福岡県	尾崎・天神	1	8号	C	59
41	熊本県	滝川石田	1	15号	B	24	112	福岡県	尾崎・天神	1	9号	C	59
42	熊本県	滝川石田	3	3号	C	24	113	福岡県	尾崎・天神	1	21号	C	59
43	熊本県	滝川石田	3	7号	C	24	114	福岡県	尾崎・天神	1	23号	C	59
44	熊本県	滝川石田	3	10号	B	24	115	福岡県	尾崎・天神	1	27号	C	59
45	熊本県	滝川石田	3	11号	C	24	116	福岡県	尾崎・天神	2	31号	C	60
46	熊本県	滝川石田	3	14号	B	24	117	福岡県	尾崎・天神	2	34号	C	60
47	熊本県	滝川石田	3	15号	C	24	118	福岡県	尾崎・天神	3	48号	C	61
48	熊本県	滝川石田	3	20号	B	24	119	福岡県	尾崎・天神	4	63号	C	62
49	熊本県	伊坂上ノ原	-	SX II 14	B	25	120	福岡県	尾崎・天神	4	65号	C	62
50	福岡県	薬師の森	5	SC13	C	26	121	福岡県	尾崎・天神	4	69号	C	62
51	福岡県	薬師の森	9	SC05	C	27	122	福岡県	尾崎・天神	4	72号	C	62
52	福岡県	中道	-	105号	C	28	123	福岡県	尾崎・天神	5	85号	C	63
53	福岡県	外之隈	5	7号	B	29	124	福岡県	尾崎・天神	5	89号	C	63
54	福岡県	外之隈	7	11号	B	29	125	福岡県	尾崎・天神	5	93号	C	63
55	福岡県	外之隈	7	17号	B	29	126	福岡県	尾崎・天神	5	97号	C	63
56	福岡県	外之隈	7	27号	B	29	127	福岡県	尾崎・天神	5	105号	C	63
57	福岡県	長島	-	23号	B	30	128	福岡県	尾崎・天神	5	118号	C	63
58	福岡県	長島	-	35号	B	30	129	福岡県	尾崎・天神	5	130号	C	63
59	福岡県	鷹取五反田	2	8号	B	31	130	福岡県	尾崎・天神	5	143号	C	63
60	福岡県	鷹取五反田	2	112号	B	31	131	福岡県	金丸	-	1号	C	64
61	福岡県	塚堂	4	1号	B	32	132	福岡県	金丸	-	2号	C	64
62	福岡県	塚堂	4	4号	BC	32	133	福岡県	金丸	-	3号	C	64
63	福岡県	塚堂	4	9号	B	32	134	福岡県	金丸	-	14号	C	64
64	福岡県	塚堂	4	14号	C	32	135	福岡県	金丸	-	15号	C	64
65	福岡県	塚堂	4	17号	BC	32	136	福岡県	金丸	-	16号	C	64
66	福岡県	塚堂	4	20号	BC	32	137	福岡県	金丸	-	18号	C	64
67	福岡県	堂畑	3	137号	B	33	138	福岡県	金丸	-	19号	C	64
68	福岡県	堂畑	3	196号	B	33	139	福岡県	金丸	-	23号	C	64
69	福岡県	日詰	1	12号	B	34	140	福岡県	金丸	-	24号	C	64
70	福岡県	船越高原	-	24号	B	35	141	福岡県	金丸	-	28号	C	64
71	福岡県	日永	1	71号	B	36	142	福岡県	金丸	-	29号	C	64

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
143	福岡県	金丸	-	31 号	C	64
144	福岡県	金丸	2	38 号	C	63
145	福岡県	奴山大門	1	SC-08	C	65
146	福岡県	奴山大門	1	SC-29	C	65
147	福岡県	片野	-	1	C	66
148	福岡県	三郎丸	2	5 号	C	67
149	福岡県	三郎丸	2	11 号	C	67
150	福岡県	三郎丸	2	12 号	C	67
151	福岡県	三郎丸	3	4 号	C	68
152	福岡県	三郎丸	3	9 号	C	68
153	福岡県	森山西	2	1 号	C	69
154	福岡県	森山西	2	2 号	C	69
155	福岡県	森山西	2	4 号	C	69
156	福岡県	森山西	2	5 号	C	69
157	福岡県	長野 A	4	20 号	C	70
158	福岡県	長野 A	4	31 号	C	70
159	福岡県	長野 E	-	1 号	C	71
160	福岡県	長野 E	-	2 号	C	71
161	福岡県	長野 E	-	6 号	C	71
162	福岡県	長野 E	-	7 号	C	71
163	福岡県	長野 E	-	9 号	C	71
164	福岡県	長野 E	-	11 号	C	71
165	福岡県	長野 E	-	12 号	C	71
166	福岡県	長野 E	-	14 号	C	71
167	福岡県	長野 E	-	15 号	C	71
168	福岡県	長野 E	-	16 号	C	71
169	福岡県	長野 E	-	17 号	C	71
170	福岡県	黒田八田ヶ坪	1	32 号	C	72
171	福岡県	黒田八田ヶ坪	1	33 号	C	72
172	福岡県	黒田持田	-	3 号	C	72
173	福岡県	黒田持田	-	4 号	C	72
174	福岡県	黒田持田	-	6 号	C	72
175	福岡県	黒田畑掘	2	1 号	C	72
176	福岡県	影塚東	-	28 号	C	73
177	福岡県	影塚東	-	30 号	C	73
178	福岡県	福富小畑	-	1 号	C	74
179	福岡県	延永ヤヨミ園	1	5 号	C	75
180	福岡県	延永ヤヨミ園	1	6 号	C	75
181	福岡県	延永ヤヨミ園	1	20 号	BC	75
182	福岡県	延永ヤヨミ園	1	41 号	C	75
183	福岡県	延永ヤヨミ園	1	43 号	C	75
184	福岡県	延永ヤヨミ園	1	48 号	C	75
185	福岡県	延永ヤヨミ園	1	53 号	C	75
186	福岡県	延永ヤヨミ園	2	2 号	C	76
187	福岡県	延永ヤヨミ園	2	9 号	C	76
188	福岡県	延永ヤヨミ園	2	14 号	C	76
189	福岡県	延永ヤヨミ園	2	17 号	C	76
190	福岡県	延永ヤヨミ園	2	24 号	C	76
191	福岡県	延永ヤヨミ園	2	34 号	C	76
192	福岡県	延永ヤヨミ園	2	41 号	C	76
193	福岡県	延永ヤヨミ園	2	47 号	C	76
194	福岡県	延永ヤヨミ園	2	81 号	C	76
195	福岡県	延永ヤヨミ園	2	91 号	C	76
196	福岡県	延永ヤヨミ園	2	2 区 137 号	C	76
197	福岡県	延永ヤヨミ園	3	21 号	C	76
198	福岡県	延永ヤヨミ園	3	27 号	C	76
199	福岡県	延永ヤヨミ園	5	29 号	C	77
200	福岡県	延永ヤヨミ園	5	38 号	C	77
201	福岡県	延永ヤヨミ園	5	39 号	C	77
202	福岡県	延永ヤヨミ園	5	51 号	C	77
203	福岡県	延永ヤヨミ園	5	56 号	C	77
204	福岡県	延永ヤヨミ園	5	61 号	C	77
205	福岡県	延永ヤヨミ園	5	62 号	C	77
206	福岡県	延永ヤヨミ園	5	64 号	C	77
207	福岡県	延永ヤヨミ園	5	69 号	C	77
208	福岡県	延永ヤヨミ園	5	71 号	C	77
209	福岡県	延永ヤヨミ園	5	74 号	C	77
210	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	23 号	B	78
211	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	51 号	B	78
212	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	55 号	B	78
213	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	71 号	B	78
214	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	95 号	BC	78
215	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	101 号	B	78
216	福岡県	赤幡森ヶ坪	-	106 号	C	78
217	福岡県	築城五反田	-	2 号	B	79
218	福岡県	築城五反田	-	7 号	C	79
219	福岡県	上唐原	1	45 号	B	80
220	福岡県	上唐原了清	2	16 号	C	81
221	福岡県	池ノ口	-	30 号	C	82
222	大分県	佐知	-	11 号	C	83
223	大分県	佐知	-	27 号	B	83
224	大分県	高畑	2	SH155	B	84
225	大分県	尾漕	-	7 号	B	85
226	大分県	尾漕	-	8 号	B	85

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
227	大分県	山口	2	2 号	B	86
228	大分県	本村	5	1 号	B	87
229	大分県	求来里平島	2	5 号	B	88
230	大分県	求来里平島	2	7 号	B	88
231	大分県	求来里平島	4	10 号	B	89
232	大分県	求来里平島	4	11 号	B	89
233	大分県	求来里平島	4	22 号 A	B	89
234	大分県	求来里平島	4	23 号 C	B	89
235	大分県	金田	-	9 号	C	90
236	大分県	金田	-	20 号	B	90
237	大分県	金田	-	25 号	C	90
238	大分県	町ノ坪	B	7 号	B	91
239	大分県	大肥	2	8 号 A	B	92
240	大分県	大肥	2	9 号	B	92
241	大分県	大肥	2	10 号	B	92
242	大分県	大肥	2	11 号 A	B	92
243	大分県	大肥吉竹	-	25 号	B	93
244	大分県	毛井	B	33 号	B	94
245	大分県	毛井	B	53 号	C	94
246	大分県	北ノ後	-	4 号	C	95
247	大分県	北ノ後	-	11 号	BC	95
248	大分県	北ノ後	-	16 号	B	95
249	大分県	北ノ後	-	23 号	B	95
250	大分県	北ノ後	-	24 号	B	95
251	大分県	北ノ後	-	48 号	B	95
252	大分県	桑迫	-	10 号	B	96
253	大分県	桑迫	-	36 号	B	96
254	大分県	桑迫	-	44 号	B	96
255	大分県	楠野	-	17 号	B	97
256	大分県	中殿	-	A10 号	B	98
257	大分県	中殿	-	B11 号	B	98
258	大分県	中殿	-	B13 号	B	98
259	大分県	中殿	-	B15 号	B	98
260	大分県	加原	-	SH04	BC	99
261	大分県	加原	-	SH06	C	99
262	大分県	加原	-	SH11	B	99
263	愛媛県	北久米浄蓮寺	3	SB-9	C	100
264	愛媛県	福音小学校構内	2	SB10	C	101
265	愛媛県	福音小学校構内	2	SB39	C	101
266	愛媛県	福音小学校構内	2	SB47	C	101
267	愛媛県	福音小学校構内	2	SB82	C	101
268	愛媛県	福音小学校構内	2	SB93	C	101
269	愛媛県	福音小学校構内	2	SB97	C	101
270	愛媛県	福音小学校構内	2	SB46	C	101
271	愛媛県	福音小学校構内	2	SB127	C	101
272	愛媛県	北井門	-	MSK5SI02	C	102
273	愛媛県	北井門	-	MSK6SI03	C	102
274	愛媛県	北井門	-	MSK6SI08	C	102
275	愛媛県	北井門	-	MSK6SI10	C	102
276	愛媛県	北井門	-	MSK6SI62	C	102
277	徳島県	大柿	2	SB7029	C	103
278	徳島県	大柿	2	SB7123	C	103
279	高知県	伏原	1	ST-10	BC	104
280	高知県	伏原	1	SX-3	BC	104
281	高知県	伏原	1	SX-4	B	104
282	山口県	上ノ山	-	SB7	B	105
283	山口県	上ノ山	-	SB9	B	105
284	山口県	上ノ山	-	SB11	B	105
285	広島県	中筋	-	SB1	B	106
286	広島県	青木原	-	SB07	B	107
287	広島県	岡の段	-	SB3	B	108
288	広島県	岡の段	-	SB15	B	108
289	広島県	岡の段	-	SB18	B	108
290	広島県	岡の段	-	SB19	B	108
291	広島県	岡の段	-	SB23	B	108
292	広島県	和知白鳥	2	SB25	C	109
293	広島県	大蔵	-	SB6- b	B	110
294	広島県	河原田 2 号	-	SB305	B	111
295	広島県	風呂谷	-	SB5	B	112
296	広島県	川高 2 号	-	SB2	B	113
297	広島県	小谷黄幡	-	SB2	B	114
298	広島県	小谷黄幡	-	SB4	B	114
299	広島県	志村	-	SB6	B	114
300	広島県	志村	-	SB7	B	114
301	広島県	浅谷山東	-	SB7	B	115
302	広島県	石谷 3 号	-	SB1	B	116
303	広島県	道ヶ曾根	-	SB5	B	117
304	広島県	道ヶ曾根	-	SB26	B	117
305	広島県	道ヶ曾根	-	SB31	B	117
306	広島県	道ヶ曾根	-	SB33	B	117
307	広島県	道ヶ曾根	-	SB64 b	B	117
308	広島県	道ヶ曾根	-	SB90	B	117
309	広島県	道ヶ曾根	-	SB97	B	117
310	広島県	郡山大通院谷	-	SB21	B	118

No.	府県名	遺跡名	次区分	遺構名	種類	出典
311	広島県	郡山大通院谷	-	SB303	B	118
312	広島県	郡山大通院谷	-	SB502	B	118
313	広島県	植谷	-	SB9	B	119
314	岡山県	久田原	-	竪穴住居 24	B	120
315	岡山県	久田原	-	竪穴住居 29	B	120
316	岡山県	久田原	-	竪穴住居 35	B	120
317	岡山県	南溝手	-	竪穴住居 6	C	121
318	岡山県	窪木	-	竪穴住居 10	C	121
319	岡山県	窪木	-	竪穴住居 11	C	121
320	岡山県	窪木	-	竪穴住居 16	C	121
321	岡山県	窪木	-	竪穴住居 30	C	121
322	岡山県	津島	4	竪穴住居 60	C	122
323	兵庫県	柿坪	-	SH20015	C	123
324	兵庫県	柿坪	-	SH20018	C	123
325	兵庫県	柿坪	-	SH20022	C	123
326	兵庫県	柿坪	-	SH20057	C	123
327	兵庫県	柿坪	-	SH30031	B	123
328	兵庫県	粟鹿	-	A-SH105	C	124
329	兵庫県	粟鹿	-	A-SH104	C	124
330	兵庫県	粟鹿	-	B-SH2007	C	124
331	兵庫県	粟鹿	-	D-SH02	C	124
332	兵庫県	粟鹿	-	D-SH12	C	124
333	兵庫県	粟鹿	-	D-SH29 b	BC	124
334	兵庫県	灰高	-	SH05	B	125
335	兵庫県	灰高	-	SH11	C	125
336	兵庫県	川除・藤ノ木	-	SH72	C	126
337	兵庫県	市ノ郷	-	SH16	C	127
338	兵庫県	市ノ郷	4	SH23	C	128
339	兵庫県	市ノ郷	5	SH-W02	C	129
340	兵庫県	市ノ郷	5	SH-E09	C	129
341	兵庫県	吉田南	2	SB203	C	130
342	兵庫県	吉田南	2	SB204	C	130
343	兵庫県	郡家	83	竪穴建物 202	C	131
344	京都府	室橋	15	SH151006	C	132
345	京都府	池上	13	SH153	C	133
346	京都府	池上	13	SH164	C	133
347	京都府	和泉式部町	-	3 号	C	134
348	京都府	下海印寺	-	SH32	C	135
349	京都府	佐山	-	SH101	C	136
350	京都府	佐山	-	SH120	C	136
351	大阪府	亀川	-	竪穴住居 405	C	137
352	大阪府	部屋北	1	C1557	C	138
353	大阪府	部屋北	1	C1559	C	138
354	大阪府	部屋北	1	C1560	C	138
355	大阪府	部屋北	1	D1	C	139
356	大阪府	万町北	1	C007	C	140
357	大阪府	万町北	1	C009	C	140
358	和歌山県	西庄	-	28 号	C	141
359	和歌山県	田屋	-	SB17	C	142
360	和歌山県	田屋	-	SB19	C	142
361	和歌山県	田屋	-	SB22	C	142
362	和歌山県	田屋	-	SB23	C	142
363	和歌山県	田屋	-	SB29	C	142
364	和歌山県	田屋	-	SB30	C	142
365	和歌山県	田屋	-	SB33	C	142
366	和歌山県	田屋	-	SB41	C	142
367	和歌山県	田屋	-	SB45	C	142
368	和歌山県	田屋	-	SB49	C	142
369	和歌山県	田屋	-	SB53	C	142
370	和歌山県	田屋	-	SB54	C	142
371	和歌山県	田屋	4	SI-2	C	143
372	和歌山県	田屋	3	SI-5	C	143
373	和歌山県	西飯降	-	5150	B	144
374	和歌山県	西飯降	-	5770	B	144
375	和歌山県	西飯降	-	5930	C	144
376	和歌山県	慈尊院	-	SI02	C	145
377	三重県	檀・柏原	-	SB12	BC	146
378	三重県	檀・柏原	-	SB19	B	146
379	三重県	北堀池	-	SH3035	C	147
380	三重県	下ノ川富田	-	SH15	B	148

## [出典]

- 本書
- 新南部・潤野遺跡、1986、熊本県文化財調査報告 84、熊本県教育委員会
- 竜田陳内遺跡、1988、熊本県文化財調査報告 98、熊本県教育委員会
- 下南部遺跡発掘調査報告書、1979、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群Ⅰ、1989、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群Ⅱ、1993、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群第 23 次調査区、2008、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H19、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群第 42 次調査区、2005、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H19、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群Ⅴ、2004、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群第 84 次調査区、2005、熊本市埋蔵文化財調査年報 7、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群Ⅵ、2007、熊本市教育委員会
- 大江遺跡群第 108 次調査区、2008、熊本市埋蔵文化財調査年報 10、熊本市教育委員会
- 辻遺跡第 1 次調査区、2001、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H11・12、
- 西谷遺跡、1985、熊本県文化財調査報告 76、熊本県教育委員会
- 新屋敷遺跡第 16 次調査区、2005、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H16、熊本市教育委員会
- 新屋敷遺跡第 26 次調査区、2007、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H18、熊本市教育委員会
- 新屋敷遺跡第 27 次調査区、2004、熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 H15、熊本市教育委員会
- 陣山遺跡、1996、熊本県文化財調査報告 155、熊本県教育委員会
- 陣山廃寺、1996、熊本市教育委員会
- 二本木遺跡群第 35 次調査区、2009、熊本市埋蔵文化財調査年報 11、熊本市教育委員会
- 二本木遺跡群 19、2012、熊本市の文化財 19、熊本市教育委員会
- 石川遺跡、2002、植木町文化財調査報告書 14、植木町教育委員会
- 今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡、2002、玉名市文化財調査報告 10、玉名市教育委員会
- 滝川石田遺跡・辺田見中道遺跡、2014、熊本県文化財調査報告 301、熊本県教育委員会
- 伊坂上ノ原遺跡、2004、旭志村文化財調査報告 8、旭志村教育委員会

- 26 乙金地区遺跡群 4、2012、大野城市文化財調査報告書 100、大野城市教育委員会
- 27 乙金地区遺跡群 6、2013、大野城市文化財調査報告書 106、大野城市教育委員会
- 28 中道遺跡・石成久保遺跡・大還端遺跡、1996、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 39、福岡県教育委員会
- 29 外之隈遺跡Ⅱ、1996、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 40、福岡県教育委員会
- 30 長島遺跡の調査Ⅰ、1995、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 34、福岡県教育委員会
- 31 鷹取五反田遺跡Ⅱ、1999、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 10、福岡県教育委員会
- 32 塚堂遺跡Ⅳ D 地区、1985、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 4、福岡県教育委員会
- 33 堂畑遺跡Ⅲ、2005、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 23、福岡県教育委員会
- 34 大の遺跡Ⅰ・日詰遺跡Ⅰ、2003、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 19、福岡県教育委員会
- 35 船越高原遺跡、2000、田主丸町文化財調査報告 13、田主丸町教育委員会
- 36 日永遺跡Ⅰ、1993、一般国道 210 号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 6、福岡県教育委員会
- 37 沖出梅木遺跡、1999、浮羽町文化財調査報告書 14、浮羽町教育委員会
- 38 貝元遺跡Ⅰ、1998、福岡県教育委員会
- 39 貝元遺跡Ⅱ、1999、福岡県教育委員会
- 40 宮原遺跡の調査Ⅳ、1998、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 51、福岡県教育委員会
- 41 有田・小田部 2、1982、福岡市埋蔵文化財調査報告書 81、福岡市教育委員会
- 42 有田・小田部 37、2002、福岡市埋蔵文化財調査報告書 725、福岡市教育委員会
- 43 有田・小田部 11、1990、福岡市埋蔵文化財調査報告書 234、福岡市教育委員会
- 44 有田周辺遺跡調査概報、1977、福岡市埋蔵文化財調査報告書 43、福岡市教育委員会
- 45 都地遺跡・金武城田遺跡、1988、福岡市埋蔵文化財調査報告書 186、福岡市教育委員会
- 46 那珂 59、2012、福岡市埋蔵文化財調査報告書 1154、福岡市教育委員会
- 47 那珂 36、2004、福岡市埋蔵文化財調査報告書 802、福岡市教育委員会
- 48 那珂 60、2012、福岡市埋蔵文化財調査報告書 1155、福岡市教育委員会
- 49 重留村下遺跡 3、2006、福岡市埋蔵文化調査報告書 880、福岡市教育委員会
- 50 春日地区遺跡群、1985、春日市文化財調査報告書 15、春日市教育委員会
- 51 三雲・井原遺跡Ⅶ、2012、糸島市文化財調査報告 7、糸島市教育委員会
- 52 牛ガ熊遺跡、1993、須恵町文化財調査報告 6、須恵町教育委員会
- 53 築後国府跡、1986、久留米市文化財調査報告書 46、久留米市教育委員会
- 54 太郎原遺跡第 1 次調査、2010、久留米市文化財調査報告書 290、久留米市役所
- 55 北の前遺跡Ⅰ、1992、広川町文化財調査報告書 9、広川町教育委員会
- 56 瀬戸遺跡、1990、岡垣町文化財調査報告 11、岡垣町教育委員会
- 57 高塚遺跡、1993、岡垣町文化財調査報告 15、岡垣町教育委員会
- 58 高丸・友田遺跡群、2008、岡垣町文化財調査報告 27、岡垣町教育委員会
- 59 尾崎・天神遺跡Ⅰ、1991、遠賀町文化財調査報告書 2、遠賀町教育委員会
- 60 尾崎・天神遺跡Ⅱ、1992、遠賀町文化財調査報告書 4、遠賀町教育委員会
- 61 尾崎・天神遺跡Ⅲ、1995、遠賀町文化財調査報告書 7、遠賀町教育委員会
- 62 尾崎・天神遺跡Ⅳ、1999、遠賀町文化財調査報告書 13、遠賀町教育委員会
- 63 尾崎・天神遺跡Ⅴ、金丸遺跡Ⅱ、2007、遠賀町文化財調査報告書 18、遠賀町教育委員会
- 64 金丸遺跡、1999、遠賀町文化財調査報告書 12、遠賀町教育委員会
- 65 新原・奴山古墳群Ⅱ、2001、津屋崎町文化財調査報告書 17、津屋崎町教育委員会
- 66 片野遺跡 2、2002、埋蔵文化財調査室年報 18、(財)北九州市芸術文化振興財団
- 67 三郎丸遺跡第 2 地点、2003、北九州市埋蔵文化財調査報告書 304、(財)北九州市芸術文化振興財団
- 68 三郎丸遺跡第 3 地点 2、2014、北九州市埋蔵文化財調査報告書 512、(財)北九州市芸術文化振興財団
- 69 森山西遺跡Ⅱ区、1997、北九州市埋蔵文化財調査報告書 204、(財)北九州市教育文化事業団
- 70 長野 A 遺跡 1(Ⅰ・Ⅳ・Ⅷ区の調査)、1986、北

- 九州市埋蔵文化財調査報告書 47、(財)北九州市教育文化事業団
- 71 長野 E 遺跡調査報告書、1985、北九州市埋蔵文化財調査報告書 42、(財)北九州市教育文化事業団
- 72 みやこ町内遺跡群 V、2011、みやこ町文化財調査報告書 7、みやこ町教育委員会
- 73 影塚南遺跡影塚東遺跡、1986、桂川町文化財調査報告書 6、桂川町教育委員会
- 74 福富小畑遺跡 D 地点、2010、福岡県文化財調査報告書 228、福岡県教育委員会
- 75 延永ヤヨミ園遺跡 I 区の調査 1、2013、東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 9、九州歴史資料館
- 76 延永ヤヨミ園遺跡 II 区 2、2014、東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 11、九州歴史資料館
- 77 延永ヤヨミ園遺跡 V 4～7 区、2014、福岡県文化財調査報告書 244、九州歴史資料館
- 78 赤幡森ヶ坪遺跡、1992、椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 8、福岡県教育委員会
- 79 築城五反田遺跡・築城小迫遺跡、2000、福岡県文化財調査報告書 153、福岡県教育委員会
- 80 上唐原遺跡 I、1995、一般国道 10 号線豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 2、福岡県教育委員会
- 81 上唐原了清遺跡 II、2000、一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書 5、福岡県教育委員会
- 82 池ノ口遺跡、1996、一般国道 10 号豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 3、福岡県教育委員会
- 83 佐知遺跡、1989、大分県文化財調査報告書 81、大分県教育委員会
- 84 高畑遺跡 2、2014、大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 76、大分県教育庁埋蔵文化財センター
- 85 尾漕遺跡、2001、日田市埋蔵文化財調査報告書 30、日田市教育委員会
- 86 山口遺跡、2000、日田市埋蔵文化財調査報告書 20、日田市教育委員会
- 87 朝日の遺跡 II 鍛冶屋廻り遺跡 2 次・本村遺跡 5 次の調査、2014、日田市埋蔵文化財調査報告書 111、日田市教育委員会
- 88 求来里平島遺跡 II、2007、日田市埋蔵文化財調査報告書 77、日田市教育委員会
- 89 求来里の遺跡 IV 求来里平島遺跡 4 次の調査、2012、日田市埋蔵文化財調査報告書 102、日田市教育委員会
- 90 求来里の遺跡 II 金田遺跡の調査、2009、日田市埋蔵文化財調査報告書 89、日田市教育委員会
- 91 求来里の遺跡 I 町ノ坪遺跡 B 地区の調査報告、2009、日田市埋蔵文化財調査報告書 88、日田市教育委員会
- 92 大肥遺跡 II、2006、日田市埋蔵文化財調査報告書 66、日田市教育委員会
- 93 大肥吉竹遺跡、2004、日田市埋蔵文化財調査報告書 48、日田市教育委員会
- 94 毛井遺跡 B 地区、2002、大分県文化財調査報告書 135、大分県教育委員会
- 95 馬姓遺跡北の後遺跡乙院屋敷遺跡、1999、大分県教育委員会
- 96 桑迫遺跡・宮原遺跡・小園久保遺跡、2010、竹田市教育委員会
- 97 楠野、1983、大分県文化財調査報告 63、大分県教育委員会
- 98 中殿遺跡、2001、久住町文化財調査報告書 11、久住町教育委員会
- 99 加原遺跡、2014、大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 73、大分県教育委員会
- 100 北久米浄蓮寺遺跡 3 次調査、1994、松山市埋蔵文化財調査報告 42、(財)松山市生涯学習振興財団
- 101 福音小学校構内遺跡 II、2003、松山市埋蔵文化財調査報告書 91、松山市教育委員会
- 102 北井門遺跡、2010、埋蔵文化財発掘調査報告書 159、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 103 大柿遺跡 II、2004、徳島県埋蔵文化財センター報告書 48、(財)徳島県埋蔵文化財センター
- 104 伏原遺跡 I、2010、高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 108、(財)高知県文化財団
- 105 上ノ山遺跡、1994、山口県埋蔵文化財調査報告書 168、山口県教育委員会
- 106 中筋遺跡、1997、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 152、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 107 青木原遺跡発掘調査報告書、1986、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 108 岡の段 C 地点遺跡、1994、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 132、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 109 和知白鳥遺跡 2、2012、(財)広島県教育事業団発掘調査報告書 42、(公財)広島県教育事業団
- 110 大歳遺跡、1994、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 111 河原田 2 号遺跡・寺の前古墳、1992、広島県

- 埋蔵文化財調査センター調査報告書 102、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 112 風呂谷遺跡・風呂谷古墳、2014、(財)広島県教育事業団発掘調査報告書 59、(公財)広島県教育事業団
- 113 川高 2 号遺跡、2005、(財)広島県教育事業団発掘調査報告書 9、(公財)広島県教育事業団
- 114 山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査調査報告Ⅶ、1992、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 115 浅谷山東 B 地点遺跡、1992、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 101、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 116 石谷 2 号遺跡・石谷 3 号遺跡、2013、(財)広島県教育事業団発掘調査報告書 50、(公財)広島県教育事業団
- 117 道ヶ曾根遺跡、1998、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 158、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 118 郡山大通院谷遺跡(西地点編)、2003、(財)吉田町地域振興事業団報告書 9、(財)吉田町地域振興事業団
- 119 郡山大通院谷遺跡(古代編)、2003、(財)吉田町地域振興事業団報告書 8、(財)吉田町地域振興事業団
- 120 植谷遺跡・根野見遺跡・植谷古墳発掘調査報告書、2002、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 199、(財)広島県埋蔵文化財調査センター
- 121 久田原遺跡久田原古墳群、2004、岡山県埋蔵文化財調査報告 184、岡山県古代吉備文化財センター
- 122 南溝手遺跡窪木遺跡、2008、岡山県埋蔵文化財調査報告 214、岡山県古代吉備文化財センター
- 123 津島遺跡 4、2003、岡山県埋蔵文化財調査報告 173、岡山県古代吉備文化財センター
- 124 柿坪遺跡、2008、兵庫県文化財調査報告 336、兵庫県教育委員会
- 125 粟鹿遺跡、2007、兵庫県文化財調査報告 323、兵庫県教育委員会
- 126 三稜迦山北鹿遺跡群灰高遺跡、2013、兵庫県文化財調査報告 453、兵庫県教育委員会
- 127 川除・藤ノ木遺跡第 2 分冊、1992、兵庫県文化財調査報告 104、兵庫県教育委員会
- 128 市之郷遺跡、2005、兵庫県文化財調査報告 286、兵庫県教育委員会
- 129 市之郷遺跡発掘調査報告書Ⅳ、2012、兵庫県文化財調査報告 433、兵庫県教育委員会
- 130 市之郷遺跡Ⅴ、2013、兵庫県文化財調査報告 454、兵庫県教育委員会
- 131 吉田南遺跡第 17、18 次調査発掘調査報告書、2006、神戸市教育委員会
- 132 郡家遺跡発掘調査報告書第 83 次調査、2008、神戸市教育委員会
- 133 室橋遺跡第 15、17 次、2010、京都府遺跡調査報告集 139、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 134 池上遺跡第 13、18 次、2004、京都府遺跡調査概報 112、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 135 和泉式部町遺跡、1991、京都市埋蔵文化財調査概要 S62、(財)京都市埋蔵文化財研究所
- 136 下海印寺遺跡、2010、長岡京市埋蔵文化財センター年報 H20、(財)長岡京市埋蔵文化財センター
- 137 佐山遺跡、2001、京都府遺跡調査概報 101、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 138 亀川遺跡、2002、(財)大阪府文化財貯砂研究センター調査報告書 75、(財)大阪府文化財調査研究センター
- 139 部屋北遺跡Ⅰ、2009、大阪府埋蔵文化財調査報告 2009-3、大阪府教育委員会
- 140 万田北遺跡Ⅰ、1993、和泉丘陵内遺跡発掘調査報告書Ⅴ、和泉丘陵内遺跡調査会
- 141 西庄遺跡、2003、(財)和歌山県文化財センター
- 142 田屋遺跡発掘調査報告書、1990、(財)和歌山県文化財センター
- 143 田屋遺跡第 7・8 次発掘調査報告書、2014、和歌山県文化スポーツ振興財団発掘調査報告書 1、(公財)和歌山県文化スポーツ振興財団
- 144 中飯降遺跡・西飯降Ⅱ遺跡・加陀寺前経塚・大谷遺跡・重行遺跡、2012、(公財)和歌山県文化財センター
- 145 慈尊院Ⅱ遺跡、2005、(財)和歌山県文化財センター
- 146 檀・柏原遺跡、1984、三重県埋蔵文化財調査報告 63、三重県教育委員会
- 147 北堀池遺跡発掘調査報告、2011、三重県埋蔵文化財調査報告 51、三重県埋蔵文化財センター
- 148 下之川富田、1998、三重県埋蔵文化財調査報告 170、三重県埋蔵文化財センター